

ゼロカーボンビジョン2050・ゼロカーボンロードマップ

ゼロカーボンビジョン2050

当社グループは、2021年2月、ゼロカーボン社会の実現に向け「ゼロカーボンビジョン2050」を策定し、グループの総力を結集して取り組んでいます。

その中では、持続可能な社会の実現に向け「ゼロカーボンエネルギーのリーディングカンパニー」として、安全の確保を前提に、安定供給を果たすべくエネルギー自給率向上に努めるとともに、地球温暖化を防止するため、発電事業をはじめとする事業活動に伴うCO₂排出を2050年までに全体としてゼロとすることを宣言しています。

お客さまや社会のゼロカーボン化に向けて取り組みを進めるうえでは、お客さまや、ビジネスパートナー、国や自治体、研究機関等と積極的に連携します。

-  関西電力グループ ゼロカーボンビジョン2050
-  関西電力グループ ゼロカーボンロードマップ
-  関西電力グループ 経営計画2026

「ゼロカーボンビジョン2050」取り組みの3つの柱

① デマンドサイドのゼロカーボン化

デマンドサイドの役割が拡大していくなかで、ゼロカーボンソリューションプロバイダーとして、すべての部門において、お客さまのゼロカーボン化を実現する最適なソリューションを提案・提供します。

② サプライサイドのゼロカーボン化

安全確保を前提に、すべての電気をゼロカーボン化し、エネルギー自給率向上による安定供給や経済性を同時に達成できる、電源の最適な組合せの実現をめざします。

分散型エネルギーリソースの活用やレジリエンスの強化等、多様化する社会ニーズも踏まえて再エネを最大限導入・主力電源化し、それを可能にする送配電系統の高度化、出力安定性に優れエネルギー密度が高い原子力エネルギーの安全最優先を前提とした最大限活用、再エネ大量導入に必要な調整力等に優れた火力のゼロカーボン化に取り組めます。さらに、国際的なゼロカーボン化に貢献します。

③ 水素社会への挑戦

水素はゼロカーボン社会の実現のために必要不可欠なエネルギーであることから、水素社会の実現に大きな役割を果たせるよう、非化石エネルギーを活用したゼロカーボン水素の製造・輸送・供給、発電用燃料としての使用に挑戦します。

ゼロカーボンロードマップ

当社グループは「ゼロカーボンビジョン2050」の実現に向けて、2030年度を中間地点と位置づけ、取組みの道筋と目標を「関西電力グループ ゼロカーボンロードマップ（以下、ゼロカーボンロードマップとする）」として定めています。（2022年3月策定、2024年4月改定）

さらに、2026年4月に公表した経営計画では、将来を見据えた脱炭素技術の探索・開発や新たな収益機会の創出に向けた新たな取組みを追加し、社会全体のゼロカーボン達成に向けた道筋を示しました。また、2040年度の事業活動に伴う温室効果ガスの削減を2013年度比で80%とする目標を掲げました。

引き続き、「ゼロカーボンビジョン2050」の実現に向け、あらゆるステークホルダーの皆さまと力を合わせて社会全体のゼロカーボン化に取り組んでいきます。

社会全体のゼロカーボン達成に向けた道筋



※1 Banking as a Service（銀行の預金・決済・送金等の機能をAPI等を通じて活用し、自社サービスとして金融機能を提供する仕組み）

※2 Carbon dioxide Capture and Storage（CO₂分離回収および貯留）

※3 Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage（CO₂分離回収および利用・貯留）

※4 Net Zero Energy Building（年間の一次エネルギー消費量を正味ゼロとすることを目指した建築物）

※5 Net Zero Energy House（年間の一次エネルギー消費量を正味ゼロとすることを目指した住宅）

※6 従来のZEHをさらに進化させた次世代の省エネ住宅基準。断熱性能や設備要件を高め、再エネの自家消費を促進する